

裾野麗峰山の会・山行報告書		文・GM	写真・GT
山行番	NO. 1916		
日時	2021/4/24 (土) 無風・晴・涼		
山域	伊豆天城・青スズ台 (1237m)		
コース	水生地下駐車場 8:15 - 旧天城トンネル 8:50 - 向峠 9:25 - 標高 1180m 峰 10:18 - 林道 - 青スズ台 (昼食) 11:00 ~ 12:32 - 大見分岐点 13:05 - 水生地歩道入口 13:40 - 駐車場 14:15 - 湯ヶ島・		
標高差	上り 駐車場 600m ~ 青スズ台 1237m = 約 637m + 137m 下り 青スズ台 1237m ~ 駐車場 600m = 約 637m + 80m		
快適度	5 (5段階評価) = 藪なし		
参加者	後藤、加藤、井上、星、斎藤由利子 (ゲスト)、合谷 = 6名		

今日は会メンバー5名とゲスト1名の6名で、伊豆天城山の青スズ台の山行である。

裾野の自宅を6時半前に出発、途中で井上さんをピックアップし、下土狩駅近くの駐車場に6時50分に到着。

下土狩駅で加藤さんと合流、7時に後藤さんの車で下土狩駅を出発。

途中、竹原でゲストの斎藤さんをピックアップし、5名で伊豆天城山に向う。

(あと1名はメンバーの星さんで伊東市在住のため、現地集合である)

ゲストの斎藤さんは耳が聞こえない障害があり、特に車の中では皆マスクを付けていることもあってコミュニケーションが取り難かった。



駐車場



ヤマシャクヤク

8時過ぎには登り口の水生地下の駐車場に到着、伊豆縦貫道のおかげで伊豆天城はずいぶん近く、気軽に行きやすい所である。

それにしても駐車場には結構車が停めてあり、コロナ禍でも我々同様に自宅ですっきりしてられないアウトドア好きの人が多いいということであろうか。

8時15分に駐車場を出発。気温は少し寒さを感じるが、天気もよく周りの新緑がまぶしい。

駐車場から414号線を少し歩いて、天城峠のバス停の所から旧天城トンネルに向かう急登の登山道に

入った。登山道に入るとすぐに「ヤマシャクヤク」が群生しており、新緑の葉の上にまだ開いていない白い花が咲いていて可愛い。

いきなりの急登で、足が重いが気温が低いせいか汗はほとんどかかなかった。

15分ほど登って旧天城トンネル口に到着、そこからさらに急登の登山道を20分ほど登って9時前に旧天城峠に到着。

峠にはブナの巨木があり、登山者を見下ろしており、その根元は骨のようになって露出している。樹齢は判らないが、数百年の歳月をかけてこのような威風堂々とした巨木に成長したのだろう。



天城の巨人（旧天城峠）

峠から登山道ではなく、ヴァリエーションコースで目的地の青スズ台に向かった。帰宅後にスマホでこのコースを確認したら、伊豆市と河津町の境界線とほぼ一致していることが判った。

このバリエーションルートは日当たりもよく勾配もそれほどきつくない歩き易いし、ブナだけでなくヒ

メシヤラの巨木も生えており、正に自然林の中を歩いている感じで気持ちがいい。
しばらく進むと「タコブナ」と呼ばれている枝がタコ足のように伸びたブナの巨木たちに出会った。
この巨木たちも数百年の風雪に耐えて生き抜いてきた天城山の主に違いない。それにしても、天城のブナの巨木には圧倒されてしまう。



タコブナ



昼食

更に進んで寒天林道と交差する辺りから馬酔木（アセビ）だらけの群生地になった。（たぶん、鹿が食べないので、馬酔木だらけになっているのではないか？）駐車場から3時間近く登って、11時に青スズ台（1237m）に到着。

頂上は広々としており、そこに山桜が満開状態で咲いていたので、その下で昼食をとることにした。昨年コロナ禍で花見の宴会はご法度であるが、桜の下で栄養剤（ビール）を2本頂き、楽しい昼食となった。

昼食後、全員で記念写真を撮り、12時半に下山開始。八丁池の方向に進み、その手前から南西方向に尾根を下った。13時に大見分岐点に到着、そこで地図とスマホでルートを確認、水性地歩道を下り、13時40分に水性地歩道入口に到着。14時15分に駐車場に到着し、無事に6時間の山行は終了した。この後、湯ヶ島の温泉（いずみ園）に行って、山行の疲れを癒して帰宅の途についた。

天候にも恵まれ、天城山の樹齢数百年のブナやヒメシヤラの巨木、満開のザクラを楽しめていい山行だ

った。

その他の記述（ごとう）

1. 林道で山梨 N0 の乗用車を 2 台確認。下にゲートがあり通行禁止。合わせ N0 を知っているようだ。私は県の自然保護委員だから、止めて詰問。「釣りが、どうのこうの」と言い訳。一応、天城森林管理署に通報した。他県に来てロクなことをしない輩だ。
2. マメサクラ（フジサクラ・ハコネサクラ）が、見ごろで美しかった。
3. お花見のタケノコ・フキ・新タマが逸品だった。



青スズ台

